

# 研究データ管理および 研究データガバナンスに関する Australasia の動向

平木俊幸

特任研究員（データガバナンス機能担当）  
国立情報学研究所  
オープンサイエンス基盤研究センター  
hiraki@nii.ac.jp



# eResearch Australasia 2024 Conference について

- 開催期間：2024/10/28 - 2024/11/1
  - 10/29 - 10/31 が本会、10/28 と 11/1 にワークショップ。ワークショップには参加せず。
- 会場：Pullman Melbourne, Albert Park（メルボルン、ヴィクトリア州、オーストラリア）
- 参加者数：162 名（closing session での報告に基づく。日本からは平木と船守美穂准教授の二名。）
- Webサイト：<https://conference.eresearch.edu.au/>
- プログラム：<https://conference.eresearch.edu.au/program/>
  
- 主催：[AeRO](#) (Australian eResearch Organisations)
  - オーストラリアにおける eResearch に焦点を当てた団体。
  - eResearch：研究活動への情報通信技術の活用。
  - 日本における「研究 DX」に近い文脈のようである。
- eResearch に関する実践・枠組みに関する議論や情報共有を目的とする国際会議。（2010 年から毎年開催。）
  - 特に Australasia（オーストラリア・ニュージーランド・ニューギニア等を含む地域の名称）における実践や枠組みが主なテーマである。
- 研究機関や、業界団体、関連企業などから多くの関係者が参加。



# カテゴリごとの発表数

※カテゴリは平木がセッションテーマ中を解釈して付けた。  
※キーノート、ポスター、ワークショップを除く。

カテゴリ	発表数	割合
分析ツール	37	25%
インフラ	24	16%
<b>研究データ管理</b>	<b>18</b>	<b>12%</b>
AI、機械学習	16	11%
FAIR	10	7%
セキュリティ	9	6%
HASS	8	5%
PID	6	4%
CARE	4	3%
<b>研究データガバナンス</b>	<b>3</b>	<b>2%</b>
研究データインフラ	3	2%
メタデータ	3	2%
ソフトウェアエンジニアリング	2	1%
その他	5	3%
合計	148	100%

# eResearch2024 参加の目的

- 豪州における研究データ管理の動向について情報収集する。
- 豪州の関係者とのネットワーク構築の手がかりを得る。
- NII RDC におけるデータガバナンス機能に関する取り組みを発表する。
  - 講演名 : Design of Research Data Governance Functions Using Data Management Plans and Records
  - [平木発表スライド](#)

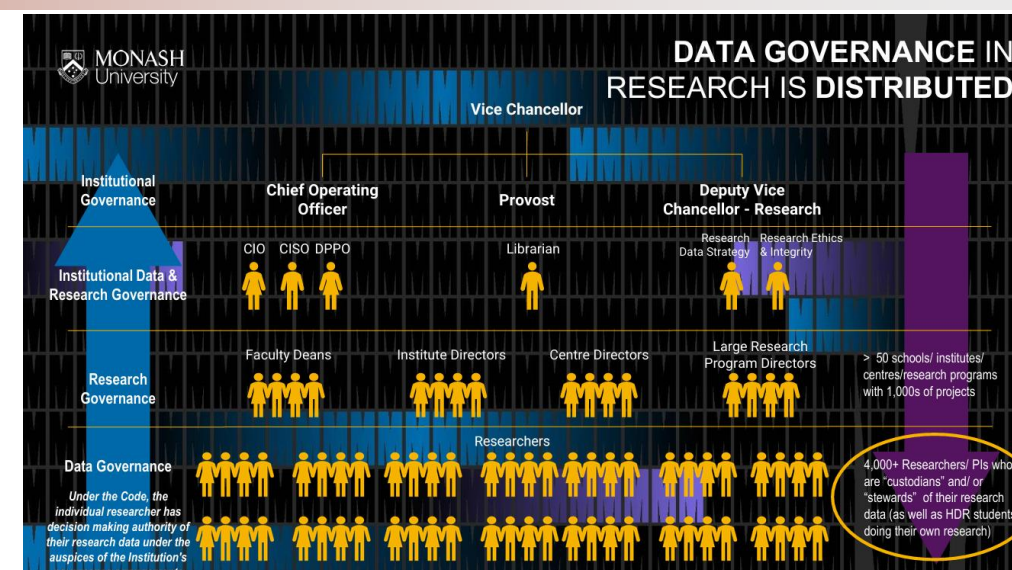


# 学内の研究データガバナンスと DMP 普及

## Change management

- A structured approach to preparing, supporting, and helping individuals and organisations transition from a current state to a desired future state, with a specific emphasis on changing behaviours
- It involves understanding the human side of change, facilitating new ways of thinking and acting to ensure that individuals adopt and sustain new behaviours

<b>A</b>	Awareness - Of the need for change
<b>D</b>	Desire - To participate and support the change
<b>K</b>	Knowledge - On how to change
<b>A</b>	Ability - To implement required skills and behaviors
<b>R</b>	Reinforcement - To sustain the change



RDM の構造化と文化変革の必要性を主張 [1]

モナシュ大学のデータガバナンス構造 [2]

- 学内の研究データガバナンスに関して、組織構造に合わせるような形で構造化することが検討されている [1, 2]。
- DMP の作成は、博士課程の学生や機微なデータを扱う研究者に対して要求する。
  - 既に研究を始めている人の研究活動に DMP 作成を導入しづらい。
  - 研究倫理・公正上問題が起こると困る領域と、若手に根付かせる、という方向。そこから文化変革を行おうとしている。

[1] <https://conference.eresearch.edu.au/wp-content/uploads/2024/11/Channon-Wednesday-1615-Jude-Channon.pdf> (last accessed at 9:10, 2024-12-3)

[2] <https://conference.eresearch.edu.au/wp-content/uploads/2023/11/1145-Dianne-Brown.pdf> (last accessed at 9:10, 2024-12-3)

# The common challenges in Offboarding

ポリシー、手順、  
ガイドラインが  
欠落している

資源、インフラの  
不足

オフボーディング  
への関心が低い

広範囲にわたる  
分断された  
システム

更新されないDMP、  
ドキュメント不足

研究データの  
現在の目録がない

孤立した  
データセット

コラボレーション  
の複雑さ

- Offboarding : 退職や異動した研究者および学生が持っていた研究データの retention & disposal (データの維持と廃棄)。
  - 研究データの retention & disposal については Australasia で盛んに議論されている。
- Cameron Fong (シドニー大学) ら少数メンバーでチェックリスト案を作成。
  - 研究者にこのチェックリストを作成させる ←どのタイミングで?
- システムがチェックするような仕組みがある方が良いのでは、という意見あり。

# これらのトピックを受けて、 研究データガバナンスを実現する上での課題

---

- 機関が研究者に期待すること（ポリシー）の明確化。
- 研究者がデータをどう管理しているか（DMP）の明確化。
- データの Values or Debris の明確化。
- これらを機関と研究者の間で共有。
- これらを研究活動にスムーズに取り込むために、負担を削減。
  - インフラ整備、サービス整備、etc.

# これらのトピックを受けて、 NII RDC の DG 機能が目指すもの

- **まずはポリシー、DMP、データ管理状態の見える化と共有を実現する基礎を作る。**
  - 現在開発している NII RDC データガバナンス機能がこれに相当。
  - 日本のデータ管理計画（DMP）に関する取り組みと同期して、研究に負荷をかけず、しかし便利な機能を目指す。
- **大学のシステムとのシームレスな連携機能を提供する。**
  - 研究データやデータ管理状態を示す情報の相互運用性を向上させる。
- **国内の研究データ基盤のシームレスな orchestration を目指す。**
  - その先には国外との連携も見据える。